

12/25 8:30

## 家族の高齢者虐待 最多に

厚生労働省は二十四日、家族や親族らによる高齢者への虐待が、二〇二〇年度は過去最多の一万七千三百八十一件に上ったと発表した。新型コロナウイルス感染拡大に伴う介護の利用控えや、外出自粛により、家族らが高齢者と一緒にいる時間が増え、介護疲れやストレスが積み重なったことが影響した可能性がある。

一方、介護事業所職員による虐待は、初めて減少に転じた。ただ担当者は「家族からの相談が減っ

ている。コロナによる面会制限で、虐待に気付きにくくなつたと推測される」と指摘した。

家族らによる虐待は、前年度比三百五十三件増。これまでの最多は一八年度の一万七千三百四十九件だった。二〇年度の虐待を種類別(複数回答)に見ると、暴力や拘束といった身体的虐待の68%が最多。暴言などの心理的虐待41%、食事を取らせないなどの介護等放棄19%と続いた。殺人などで死亡したのは前年度から十人増の二十

五人だった。発生要因は虐待者の「介護疲れ・ストレス」「精神状態が安定していない」のほか、高齢者の状況では「認知症の症状」が多かった。虐待したのは息子が40%で最も多かった。

介護職員による虐待件数は五百九十五件で、前年度と比べ四十九件減った。死亡事例は三人。自治体への相談・通報件数は百七十減った。家族や親族からの相談・通報は四百九十九件から三百三十一件に減った。

高齢者虐待防止法に基づき調査を実施。自治体が虐待と判断した件数を累計している。

### 20年度、1万7000件 コロナ影響か